

P2-282 月経異常における脂質代謝の臨床的検討

防衛医大

今井加納子, 牧村紀子, 笹 秀典, 田中陽子, 古谷健一

【目的】各種月経異常については、婦人科内分泌治療が選択されるが、脂質代謝や adipocytokine に関する報告は少ない。当科で治療した月経異常症例の脂質代謝を検討した。【方法】当科を受診した多嚢胞性卵巣症候群や体重減少性無月経、早期卵巣機能不全などの月経異常例 37 例を対象とし、各種内分泌試験、骨密度 (BMD) 及び脂質代謝マーカーを検討した。脂質代謝マーカーは、血中アディポネクチン (An), レプチン (Lpt), 活性化グレリン (ActGhr), デスアシルグレリン (DesGhr) を測定した。本研究は実施前に当施設の倫理委員会の承認を得た。【成績】多嚢胞性卵巣症候群の年齢、体重、Body mass index (BMI), 体脂肪率の平均値は 32.8 歳, 64.9kg, 26.8, 33.3% であった。体重減少性無月経群では年齢 29.2 歳, 体重 46.8kg, BMI 18.9, 体脂肪率 18.9%, BMD は $0.85\text{g}/\text{cm}^2$ で、脂質代謝には大きな変化は認められなかった。早期卵巣機能不全群の計測値は前 2 群の中間の値を示した。各群における adipocytokine と BMI の関係では、Lpt は正の相関、An は負の相関がみられたが、ActGhr, DesGhr には一定した傾向はなかった。【結論】各種月経異常では婦人科内分泌治療とともに、脂質代謝や adipocytokine に関する検討も必要であると思われる。

P2-283 多嚢胞性卵巣症候群における血中抗ミューラー管ホルモン値：インスリン抵抗性指数との関連

医療法人愛生会扇町レディースクリニック

朝倉寛之, 田中紀子

【目的】抗ミューラー管ホルモン (AMH) は顆粒膜細胞により産生され卵胞の発育にて抑制的に作用する。多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) の AMH 値は高値とされるが、その調節因子は不明である。PCOS の本態的病態と考えられるインスリン抵抗性の各種指数と AMH 値の相関を検討した。【方法】月経異常と卵巣の多嚢胞性超音波所見および高テストステロン血症があり、Rotterdam 基準にて PCOS と診断される女性 40 名より同意を得て、経口 75g 糖負荷テスト (0, 60, 120 分採血) と 2 段階 ELISA 法 (検出限界 0.7pM , inter&intra-assay CV 各 12.3%, 14.2%) による血中 AMH 値測定を行った。【成績】PCOS 女性 (年齢 31.9 ± 3.9 (平均 $\pm$ SD) 歳) の平均 AMH 値は $50.4 \pm 31.1\text{pM}$ で、非 PCOS 女性 8 名の平均値 $16.7 \pm 10.5\text{pM}$ より有意に高値だった。PCOS 女性の AMH 値は両側卵巣の総和体積 ($18.2 \pm 11.4\text{cm}^3$) と有意な正の相関 ($r=0.52$) があつたが、体格指数 (BMI, $21.1 \pm 3.0\text{kg}/\text{m}^2$), 胴腰周囲比 (0.85 ± 0.06), 血中 LH 値 ($5.5 \pm 3.6\text{IU}/\text{L}$), テストステロン値 ($67.3 \pm 32.8\text{ng}/\text{dL}$) とは相関がなかった。また AMH 値は空腹時インスリン値 ($4.3 \pm 2.3\text{IU}/\text{L}$), 空腹時血糖・インスリン比 (22.8 ± 8.4), HOMA-R (0.90 ± 0.51) および 75g 糖負荷後 0, 60, 120 分でのインスリン値の総和値 ($98.6 \pm 42.1\text{IU}/\text{L}$) とも相関がなかった。空腹時血糖値 ($83.1 \pm 4.9\text{mg}/\text{dL}$) は卵巣総和体積と有意な正の相関を示した ($r=0.41$)。【結論】PCOS 女性での AMH 値は高値であり、卵巣体積および卵胞数の増加を反映した。しかしインスリン抵抗性を評価する各種指数とは相関がなく、他の調節因子による AMH 産生への関与が示唆された。AMH 値測定は PCOS の診断を補完するが、同症でのインスリン抵抗性の評価には適さない検査と考えられた。